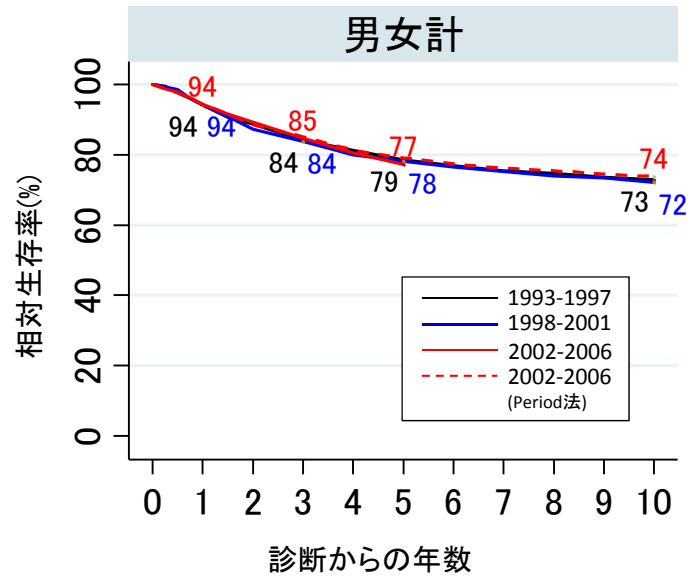


喉頭がん

(ICD10: C32)

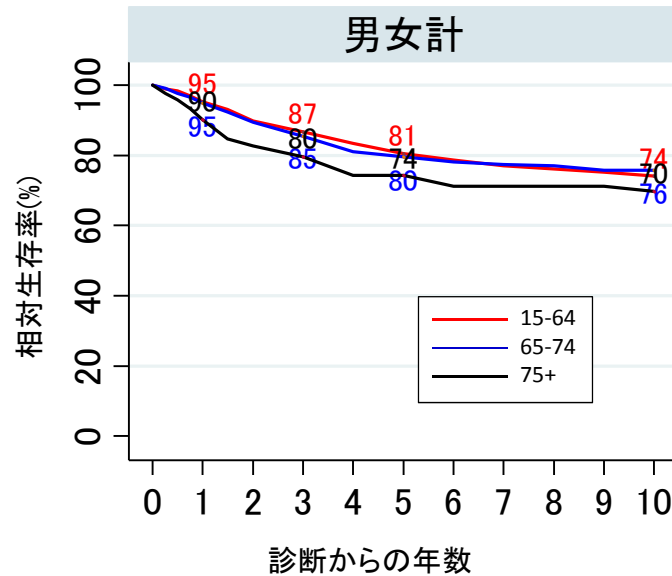
10年相対生存率

全患者



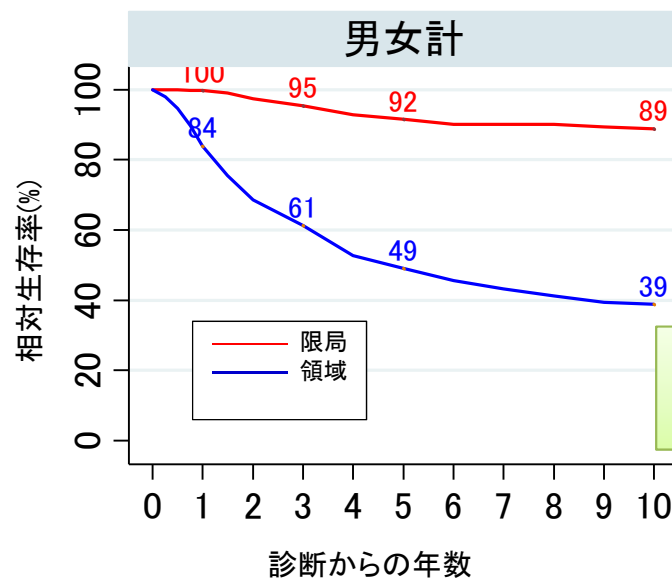
Key Point 1
1993年以降、相対生存率の大きな変化はみられない。診断から5年以降も相対生存率が緩やかに低下する。

年齢階級別 (2002-2006年のperiod analysisによる生存率)



Key Point 2
高齢者では相対生存率が低い。15-64歳と65-74歳の相対生存率はほぼ等しい。

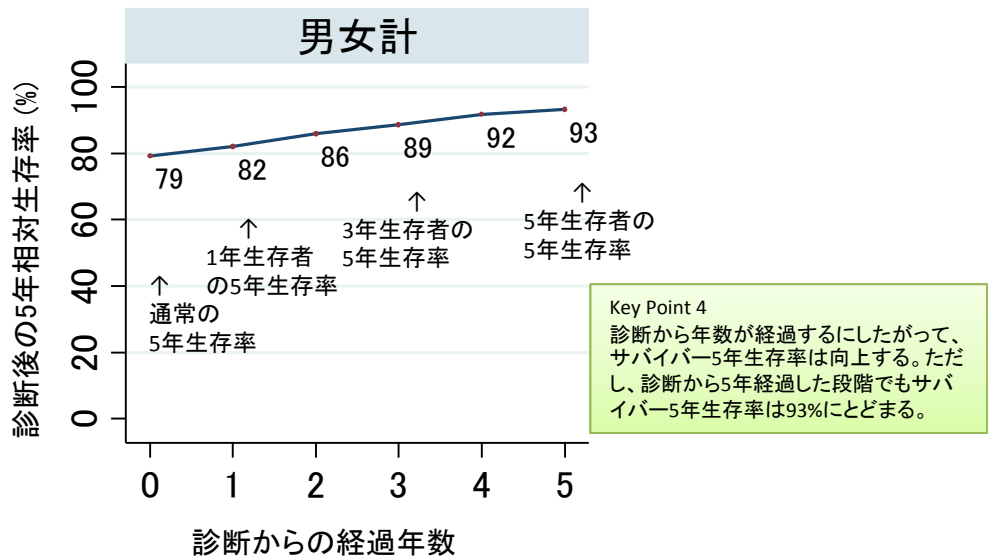
進行度別 (2002-2006年のperiod analysisによる生存率)



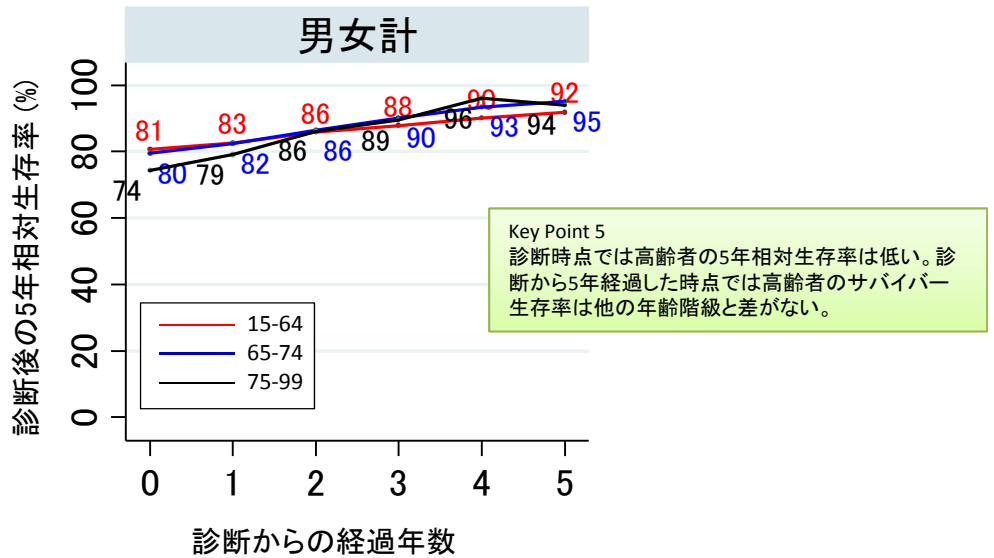
Key Point 3
進行度別で相対生存率が大きく異なる。領域では診断から5年以降も相対生存率は急激に低下する。

サバイバー5年相対生存率

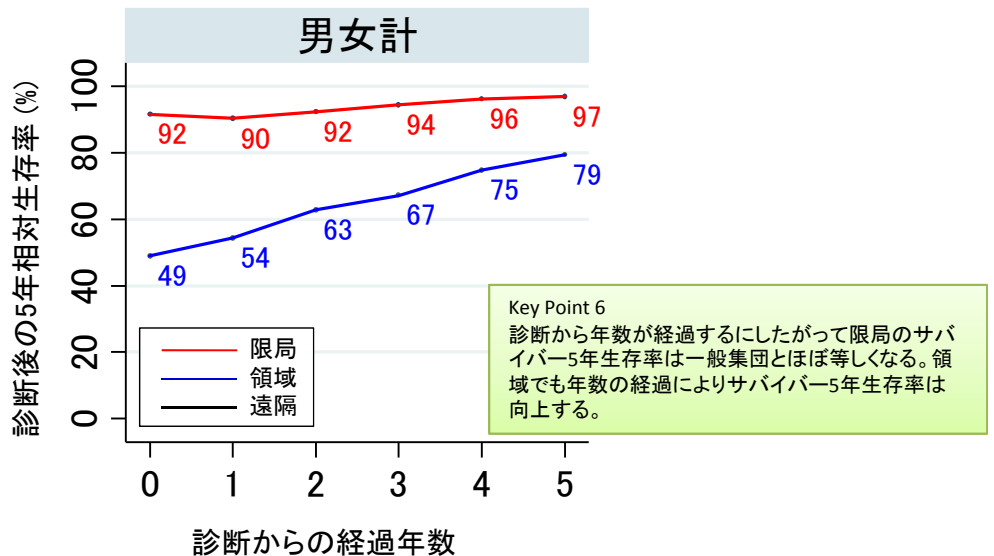
全患者



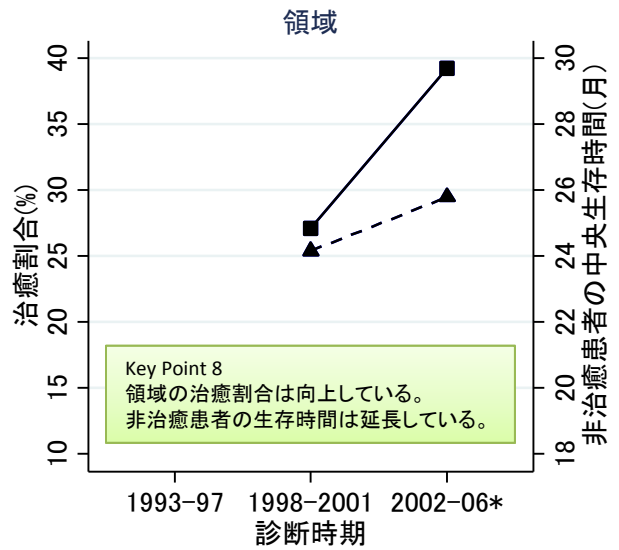
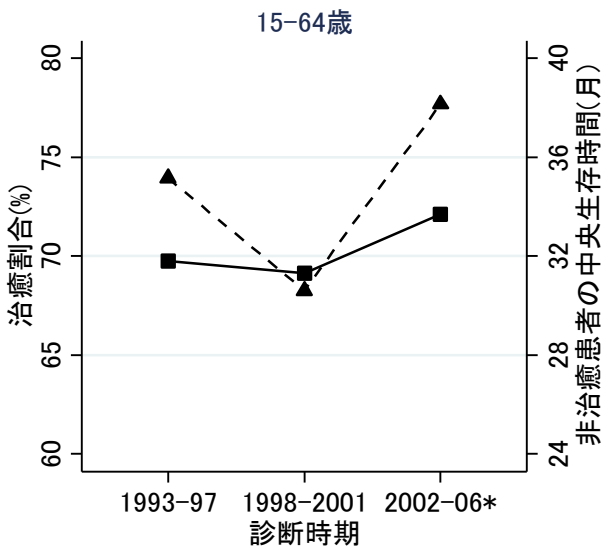
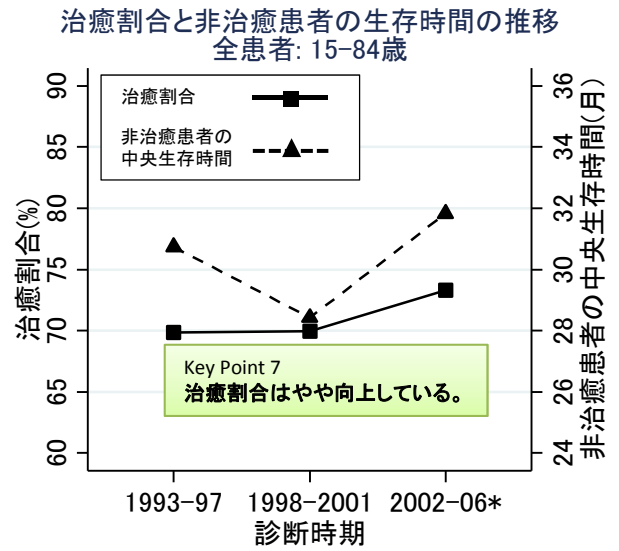
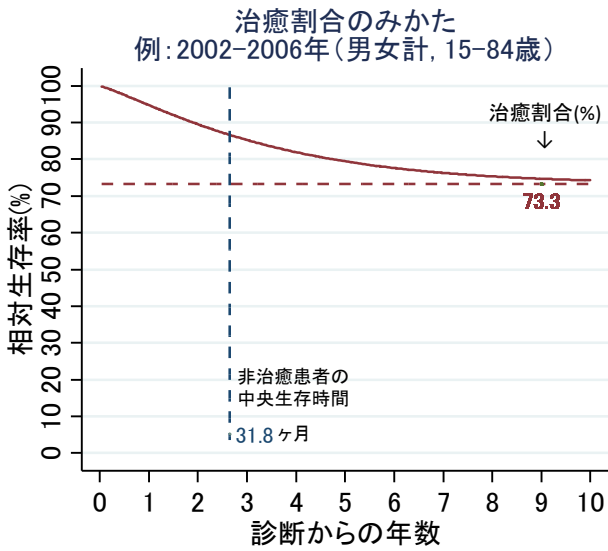
年齢階級別



進行度別



治癒割合の推移



* 2002-2006年にフォローアップされた患者(period法)

表1. 解析対象者

		Total		1993-1997		1998-2001		2002-2006		2002-2006 (period)		
		N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	
男性	全患者	5,524	100.0	1,935	100.0	1,532	100.0	2,057	100.0	-	-	
	年齢階級別	15-64	2,288	41.4	824	42.6	638	41.6	826	40.2	-	-
		65-74	2,097	38.0	771	39.8	586	38.3	740	36.0	-	-
		75-99	1,139	20.6	340	17.6	308	20.1	491	23.9	-	-
	進行度別	限局	3,636	65.8	1,269	65.6	990	64.6	1,377	66.9	-	-
		領域	1,212	21.9	407	21.0	331	21.6	474	23.0	-	-
		遠隔	89	1.6	29	1.5	26	1.7	34	1.7	-	-
不明		587	10.6	230	11.9	185	12.1	172	8.4	-	-	
女性	全患者	365	100.0	114	100.0	116	100.0	135	100.0	-	-	
	年齢階級別	15-64	121	33.2	34	29.8	41	35.3	46	34.1	-	-
		65-74	133	36.4	39	34.2	45	38.8	49	36.3	-	-
		75-99	111	30.4	41	36.0	30	25.9	40	29.6	-	-
	進行度別	限局	228	62.5	68	59.6	74	63.8	86	63.7	-	-
		領域	82	22.5	25	21.9	22	19.0	35	25.9	-	-
		遠隔	10	2.7	6	5.3	4	3.4	0	0.0	-	-
不明		45	12.3	15	13.2	16	13.8	14	10.4	-	-	
男女計	全患者	5,889	100.0	2,049	100.0	1,648	100.0	2,192	100.0	2,297	100.0	
	年齢階級別	15-64	2,409	40.9	858	41.9	679	41.2	872	39.8	922	40.1
		65-74	2,230	37.9	810	39.5	631	38.3	789	36.0	825	35.9
		75-99	1,250	21.2	381	18.6	338	20.5	531	24.2	550	23.9
	進行度別	限局	3,864	65.6	1,337	65.3	1,064	64.6	1,463	66.7	1,539	67.0
		領域	1,294	22.0	432	21.1	353	21.4	509	23.2	528	23.0
		遠隔	99	1.7	35	1.7	30	1.8	34	1.6	-	-
不明		632	10.7	245	12.0	201	12.2	186	8.5	-	-	

表2. 1, 3, 5, 10年相対生存率(全患者: 診断時期別、Period法: 年齢階級別進行度別)

		1年相対生存率		3年相対生存率		5年相対生存率		10年相対生存率			
		RS	95%CI	RS	95%CI	RS	95%CI	RS	95%CI		
男女計	1993-1997年	全患者	94.2	[92.8-95.3]	84.3	[82.2-86.1]	78.6	[76.2-80.8]	73	[69.9-75.7]	
	1998-2001年		94.3	[92.7-95.5]	83.8	[81.5-85.9]	78.1	[75.4-80.6]	72.2	[68.8-75.3]	
	2002-2006年		94.4	[93.1-95.5]	84.7	[82.7-86.5]	77.4	[75.0-79.5]	-	-	
	2002-2006年(Period法)		94.4	[93.0-95.4]	85.2	[83.2-87.0]	79.2	[76.8-81.4]	73.8	[70.8-76.6]	
	年齢階級別	15-64		95.3	[93.4-96.6]	86.7	[83.9-89.0]	80.6	[77.3-83.4]	74.1	[70.1-77.6]
		65-74		94.9	[92.6-96.5]	85.5	[82.0-88.4]	79.5	[75.4-83.1]	75.7	[69.8-80.6]
		75-99		90.2	[86.1-93.1]	79.7	[73.6-84.5]	74.2	[66.5-80.4]	69.8	[56.6-79.7]
	進行度別	限局		99.7	[95.8-100.0]	95.4	[93.3-96.8]	91.6	[88.9-93.6]	88.9	[85.2-91.7]
		領域		83.9	[80.0-87.2]	61.3	[56.2-66.0]	49.0	[43.5-54.2]	38.9	[32.9-44.9]
		遠隔		-	-	-	-	-	-	-	-

表3. サバイバー5年相対生存率(Conditional five-year survival)

診断からの年数		0年		1年		2年		3年		4年		5年	
		RS	95%CI	RS	95%CI	RS	95%CI	RS	95%CI	RS	95%CI	RS	95%CI
男女計	全患者	79.2	[75.9-82.1]	82.0	[79.3-84.5]	86.0	[83.5-88.2]	88.7	[86.0-90.8]	91.7	[89.0-93.8]	93.2	[90.3-95.3]
	年齢階級別												
	15-64	80.6	[76.1-84.3]	82.6	[78.9-85.8]	85.9	[82.5-88.6]	87.9	[84.4-90.6]	90.1	[86.6-92.8]	91.9	[88.1-94.5]
	65-74	79.5	[73.9-84.1]	82.3	[77.4-86.3]	86.4	[81.6-90.1]	90.2	[84.7-93.8]	93.5	[86.7-96.8]	95.2	[86.7-98.3]
	75-99	74.2	[63.9-82.0]	79.0	[68.6-86.3]	86.1	[74.4-92.7]	89.5	[74.2-95.9]	96.0	[53.7-99.7]	94	[56.9-99.3]
	進行度別												
	限局	91.7	[88.4-94.1]	90.4	[87.3-92.8]	92.4	[89.5-94.5]	94.4	[91.3-96.4]	96.3	[92.9-98.1]	97	[93.1-98.7]
	領域	49.0	[41.9-55.7]	54.4	[47.5-60.9]	63.0	[55.6-69.5]	67.2	[59.0-74.1]	74.9	[65.5-82.0]	79.4	[69.0-86.6]
	遠隔	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表4. 治癒割合と非治癒患者の生存時間の中央値(MST: median survival time)の推移

		1993-1997年				1998-2001年				2002-2006年 (Followed-up)						
		分 布	治癒 割合(%)	95%CI	MST (月)	95%CI	分 布	治癒 割合(%)	95%CI	MST (月)	95%CI	分 布	治癒 割合(%)	95%CI	MST (月)	95%CI
男女計	全患者	W	69.8	[65.4-74.0]	30.7	[25.3-37.3]	W	69.9	[65.5-74.1]	28.4	[23.8-34.0]	W	73.3	[69.8-76.6]	31.8	[26.8-37.8]
	年齢階級別															
	15-64	W	69.8	[63.5-75.3]	35.2	[26.8-46.1]	W	69.1	[63.3-74.4]	30.6	[24.9-37.7]	-	-	-	-	-
	65-84	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	進行度別															
	限局	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	領域	-	-	-	-	-	L	27.1	[17.9-38.9]	24.2	[18.1-32.3]	W	39.2	[32.9-46.0]	25.8	[21.8-30.5]
	遠隔	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

W: Weibull, L: Log-normal, G: Gamma

Key Point 解説

弘前大学大学院医学研究科地域がん疫学講座 松坂方士

10年相対生存率

Key Point 1

1993年以降、相対生存率の大きな変化はみられない。診断から5年以降も相対生存率が緩やかに低下する。

喉頭がんの相対生存率は1993年以降、大きな変化はみられない。これは患者の年齢分布や進行度分布に変化がなかったことが原因の1つと考えられる。

また、喉頭がんの病因としてあげられる喫煙は¹⁾、喉頭がん以外の部位の発がんや、慢性閉塞性肺疾患の発症と関連するなど、全体的に健康を障害する。このことが、診断から5年以降の生存率の低下を説明すると考えられる。

Key Point 2

高齢者では相対生存率が低い。15-64歳と65-74歳の相対生存率はほぼ等しい。

75歳以上における相対生存率は、他の年齢階級と比較して低い。しかし、15-64歳と64-74歳の相対生存率はほぼ等しく、これは食道がんや結腸・直腸がんなど、他の部位のがんにもみられる現象である。

Key Point 3

進行度別で相対生存率が大きく異なる。領域では診断から5年以降も相対生存率は急激に低下する。

「限局」の相対生存率は診断から10年が経過した時点で89%と比較的良好である。その一方で、「領域」の相対生存率は診断から年数が経過する

にしたがって急激に低下し、この傾向は診断から5年以上が経過しても変わらない。

診断されてから1年ごとの5年相対生存率

Key Point 4

診断から年数が経過するにしたがって、サバイバー5年生存率は向上する。ただし、診断から5年経過した段階でもサバイバー5年生存率は93%にとどまる。

全患者における診断時点の5年相対生存率は79%であるが、診断からの年数が経過するにしたがってサバイバー5年生存率は次第に向上する。ただし、診断から5年経過した段階でも、サバイバー5年生存率は一般集団より10%程度低い。これは、「領域」の生存率が全体の生存率を引き下げているものと考えられる。(Key Point 6)

Key Point 5

診断時点では高齢者の5年相対生存率は低い。診断から5年経過した時点では高齢者のサバイバー生存率は他の年齢階級と差がない。

診断時点での5年相対生存率は高齢者が低い。しかし、診断から年数が経過するにしたがって年齢階級間の差は小さくなり、5年経過後のサバイバー生存率ではほとんど差がなくなる。この現象は他の部位のがんでも同様にみられる。

Key Point 6

診断から年数が経過するにしたがって限局のサバイバー5年生存率は一般集団とほぼ等しくなる。領域でも年数の経過によりサバイバー5年生存率

は向上する。

「限局」の5年相対生存率は診断時点から良好であり、診断から5年が経過するとサバイバー5年生存率は100%に近くなり、死亡リスクは一般集団とほぼ等しくなる。

「領域」では診断時の5年相対生存率は49%と不良であるが、1年生存者のサバイバー5年生存率は54%、3年生存者では67%と向上し、5年生存者では79%にまで至る。

治癒割合

Key Point 7

治癒割合はやや向上している。

喉頭がん患者の7割以上が治癒に至る。また、1993年以降、治癒割合は緩やかに向上している。

非治癒患者の生存時間は1998-2001年に診断された症例で一時的に短縮しているため、傾向は明らかではない。

Key Point 8

領域の治癒割合は向上している。非治癒患者の生存時間は延長している。

「領域」の治癒割合は向上しており、非治癒患者の生存時間も延長している。化学療法や放射線治療の進歩、さらにはこれらによる集学的治療の普及が大きく寄与していると考えられる。

文献

- 1) Pelucchi C, Gallus S, Garavello W, et al. Alcohol and tobacco use, and cancer risk for upper aerodigestive tract and liver. *Eur J Cancer Prev.* 2008;17(4):340-4